

「仕事と介護の両立セミナー」テキストを活用しよう

厚生労働省の調査によると、介護が必要な親がいない正社員のうち約4割が今後5年間で親の介護が必要になり、介護と仕事の両立に対する不安は8割近くの正社員が抱えていると言われている。具体的には、介護保険制度の仕組みがわからなかったり、介護と仕事の両立に不安を抱えていたりしています。

こうした従業員の不安を解消する方法の1つとして、介護セミナーの開催があります。こういったセミナーを開催したらよいかわからない場合は、厚労省の「企業における仕事と介護の両立支援実践マニュアル」にある「仕事と介護の両立セミナー」テキストを参考にしてみましょう。

■なぜ介護セミナーは有効か

介護と仕事の両立に関する会社の方針を、リーフレットで配付する企業もあります。しかし、介護は専門用語が多く、リーフレットだけでは従業員に伝わらない可能性もあるため、介護セミナーの開催が有効です。

また、介護への不安を抱えている割には、介護を先延ばしにしている従業員は少なくありません。しかし、介護は

仕事や自分の人生に大きな影響を及ぼすため、介護セミナーを開催して、介護と向き合うきっかけをつくることも大切です。

■セミナー講師を工夫する

人事労務担当者がセミナーの講師を務めてもよいのですが、可能であれば、現在介護中の従業員に介護エピソードを披露してもらいましょう。

そのエピソードを軸に、介護保険制度や会社の介護休業制度について説明してもらったほうが、従業員の介護への関心度はより高まります。

■フォローアップ調査票

セミナー実施後は、厚労省の「研修実施後のフォローアップ調査票」を参考に、会社に求める介護のニーズを把握しましょう。

また、現在介護中、あるいは介護予備軍と思われる従業員に、直接面談を行なうなど、個別のフォローアップにもつなげていきましょう。

介護セミナーは継続的に行なうことが大切です。

介護作家・ブロガー

工藤 広伸

認知症介助士。ブログ「40歳からの遠距離介護」を運営。著書に『ムリなくできる親の介護』『親が認知症!? 離れて暮らす親の介護・見守り・お金のこと』など。